優良で丈夫な乳牛に育てるための哺乳育成方法

乳牛では、哺育期と初めての分娩や2回目の分娩において死亡・廃用率が高く問題となっています。そこで、早期に受胎し、分娩後の高い泌乳量を担保しつつ、優良で丈夫な乳牛に育てるための哺乳育成方法を開発しました。

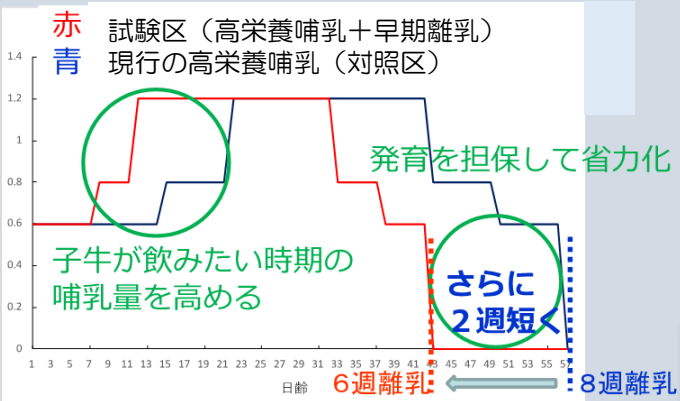
哺育期の死亡・廃用率
全国7.5% 埼玉6.2%

若齢牛の死亡・廃用率
初産：15.7%　2産22.1%

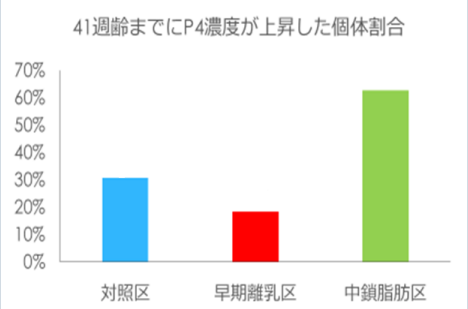
**優良で丈夫な乳牛に育てる
省力化も担保した
哺乳育成方法を開発**

早く大きくなって立派な乳牛になるぞ！

中鎖脂肪酸により機能性を高めた代用乳を早い段階から増給（生後12日齢で最大哺乳）し42日で離乳しても56日哺乳と同等の発育であり、その後の成長も良好で早い段階で受胎できます。さらにこの代用乳に酪酸油脂を添加すると下痢を抑制します。



早期離乳、中鎖脂肪酸添加早期離乳では哺乳期間が14日短くなるため代用乳代3,115～3,640円/1頭の削減が可能です。



中鎖脂肪酸添加早期離乳では41週齢までに繁殖適齢期となったことを示すホルモン濃度(P4)が高まった個体が多くなります。その結果早期に受胎し、初産分娩月齢を26ヶ月月から24ヶ月に短縮でき、育成期間の飼料費30,000円/1頭の削減が可能です。

本研究は農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援により行った「省力化を担保した丈夫な乳用後継牛を育成する高度哺育プログラム」の成果です。中鎖脂肪酸および酪酸添加子牛用代用乳は、特許出願手続きを進め製品化する予定です。なお、試験牛の分娩後の泌乳量やその後の飼養成績については現在県単課題において試験継続中です。

彩の国
埼玉県
埼玉県農業技術研究センター　酪農担当
電話: 048-536-0311（代表）　E-mail:k360311@pref.saitama.lg.jp
〒360-0102　埼玉県熊谷市須賀広784　URL: https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/